



すえなり

学校教育目標「夢をもち、しっかり学ぶ子」
～人とのかかわり合いを深めながら～

宝塚市立末成小学校

学校関係者評価委員会より

2月に開催しました学校運営協議会(コミュニティ・スクール)で、学校関係者評価をしていただきました。学校関係者評価は学校、家庭、地域が学校の現状や課題について共通理解を図り、その連携協力により学校運営の改善に当たることをねらいとしています。

委員のみなさまには、12月に実施した児童・保護者対象の「学校生活アンケート」の集計結果と教職員による学校自己評価の結果をもとに、4領域9項目について評価していただきました。

1 学校運営

(1) 学校経営

- ① コロナで学校行事の制限や変更がある中で、先生方も懸命に学校運営に取り組んでくださった。
- ② 規模を縮小しての学校行事の開催は子どもにとって良かった。保護者も子どもの頑張っている姿をみる事ができた。運動会は熱中症対策をし、音楽会は感染症対策をし、午前中であつたが開催ができたことはよかった。
- ③ コロナ禍での家庭・地域の協力で制限はあつたが、子どもたちの学校生活は元に戻りつつある。
- ④ 先生が子どものためによくしてくれていると感じている。
- ⑤ 教職員の勤務時間の適正化については、先生がする仕事が多すぎる。まずは、SC や SSW が各校1名専任配置にならないと先生方の多忙化は解消できない。家庭の課題など福祉につなげることはSSWなどが行うべきである。市教育委員会に考えていただきたい。

(2) 開かれた学校づくり

- ① コミュニティ・スクールとして、地域の方の協力や支援が手厚く、大変助かっている。朝の掃除、登校時、寺子屋、防災訓練など日々教育活動に協力的である。
- ② 幼稚園との交流や、保育園・幼稚園の先生方が授業見学に来る機会が設定できた。就学前の情報交流ができた。
- ③ 高司中学校との連携が例年より早い時期に図ることができた。
- ④ 学級通信や学年だより、学校通信や学校ホームページで、学校の様子を家庭や地域に伝えることができた。

(3) 生活指導

- ① 家庭・地域・学校で子どもが成長していく姿が素晴らしい。
- ② 小児科医との研修や保護者対象の講演会で医教連携ができて始めている。
- ③ SC・SSW・外部機関との連携を重要視されている動きに感謝する。
- ④ 学校での生活指導では、家庭の協力があつた。引き続き連携を図りたい。
- ⑤ 小1ギャップの解消に向けて保幼小連携をシステム化し、就学前からの保護者へ啓発する必要がある。

2 教育課程

(1) 教科指導

- ① 子どもが主体的に学ぶ学習を目指し、授業を行った。ゲストティーチャーの招聘が有効だった。
- ② タブレット PC を活用した学習により、児童の学習への興味のもちかたに変化がある。
- ③ ステップアップや放課後学習で、個別指導を意欲的に行った。

こくないけんきゅう (2) 校内研究

- ① 子どもたち同士の話し合いの活動や学び合いの場は、大変だったと思う。
- ② 安全・安心のコロナ対策を踏まえた上で、教職員対象の自主研究会、ミニ支援研修会、授業公開などの機会を設定し、研修を実施しているのは良い。
- ③ 児童の読書量が少ないことが課題である。本よりもスマホやパソコンに向かう時間が増えているのかもしれない。教科学習と関連させながら、読書生活が広がる研究を深めたい。

とくべつしえんきょういく (3) 特別支援教育

- ① 支援学級の担任と交流学級の担任との連携、支援学級の担任と保護者との連携を密に取りながら教育活動を進めることができた。
- ② 通級指導、個別の支援などが必要な児童には、就学について保護者と話し合ってきた。教職員で協力して取り組んだが、人的支援・物的支援が不足している状態なので、引き続き要望する必要がある。

3 課題教育

じんけんきょういく (1) 人権教育

- ① 本校の人権教育目標、学年目標を概ね達成し、「自他の違いを認め、お互いを大切にしあえる関係」づくりを進めることができた。十分ではないこともあるので、引き続き、学校・家庭・地域の連携を促進していく必要がある。
- ② 同和教育・平和教育・LGBTQ・福祉教育等、人権にかかわる課題の解決に向け、あらゆる機会を捉えて、引き続き人権教育を進めていく。

あんぜん ぼうさい (2) 安全・防災教育

- ① 児童の安全は、大人の連携が必要で、今後も進める。
- ② 避難訓練は、密を避け、地域と学校、幼稚園で実施することができた。
- ③ 不審者情報に対して、学校と地域と青少年センターが連携して素早く見回りを強化するなど、迅速な対応ができた。
- ④ 登下校時のトラブルもあるので、登下校の安全対策を図っていく。大人の見守りも必要である。
- ⑤ コロナ禍でできなかったが、来年度からは緊急事態発生時の訓練を行う。

どくじこうもく 4 独自項目

しせつ かんきょう ようぐとう (1) 施設・環境・用具等

- ① 老朽化が激しい。施設や設備の破損箇所、危険箇所等がまだまだたくさんあり、引き続き修繕や改修を要望していく。南館にエレベーターを希望する。
- ② 壊れたところ、危険なところはすぐに用務員が修繕した。
- ③ 児童には、電気やエネルギーの無駄を削減することをSDGSの観点からも指導した。

かんけいしゃひやうかいいんかい 関係者評価委員会を終えて

ご多用の中、学校運営協議会委員のみなさま、貴重なご意見をありがとうございました。いただいたご意見を、今後の学校運営に生かしていきたいと考えています。子どもたちの成長の様子や課題もしっかりみていただいています。保護者・地域の皆様には、子どもたちへの見守りや支援について、「できることを、できるときに、できることから」していただいています。お礼申しあげます。

今年度も、保護者・児童の学校生活アンケートを実施することで、学校・児童の現状や目標の達成状況をより客観的に把握でき、課題・改善点についてもより明確になったと考えています。未成小学校の子どもたちがよりよく成長できるためにも、さらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

報告が遅くなりましたことにお詫びいたします。

校長 南 理香